鹿児島県における古墳時代出土鈴

藤島　伸一郎

Unearthed bell of kofun period in Kagoshima prefecture

Shinichiro Fujishima

要旨

古墳時代における鹿児島県内出土の「鈴」は，平成30年12月現在で4遺跡において16点出土しており，無文1類9点，無文2類2点，鍛造Ⅰ類2点，転用鈴3点に分類される。日本でも最も古い部類と言われる無文1類及び2類は，朝鮮半島や関東・信越・南九州に多く分布しており，5世紀代における鈴は朝鮮半島で製造され，日本の周辺域に多く配布されたと考えられる。6世紀代は東日本を中心に鈴の出土が全国的に多くなるが県内では少なく，鈴の製造が東日本を中心に行われ，県内は地理的条件や交流ルートの変化もあり配布が減少したことが伺える。

キーワード　無文Ⅰ類　無文Ⅱ類　鍛造Ⅰ類

1　はじめに

平成24年度における立小野堀遺跡の発掘調査において10個の青銅鈴が出土した。鹿児島県において「鈴」についてはこれまでの出土数が少ないためか，集成等が行われたことが無い。よって一度整理・検討する必要があると考え，これらの鈴の特徴等を記述し，分類を行い，他県出土分との比較検討を行うこととする。なお，鈴については色々な定義があるが，ここでは「球形で，中空の内部に丸を入れ，振って鳴らす」ものとする。

2　これまでの研究

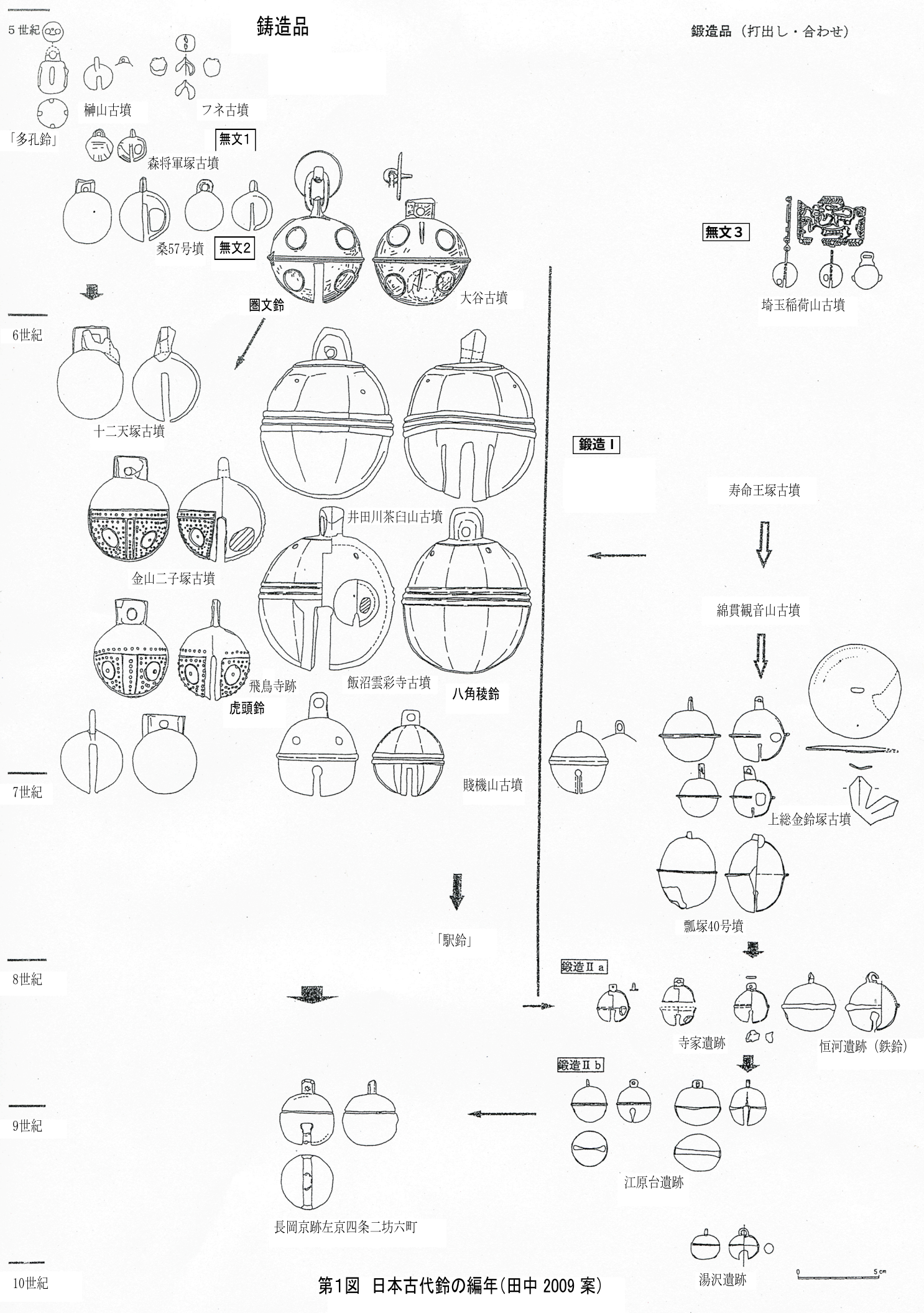
鈴の研究に関しては，馬具の範疇で扱われることが多く，単体としての鈴が研究対象となることは少なかった。しかし，古墳内などからの出土例が増えるにつれ，集成が進んだ。著名な例として，千葉県上総金鈴塚古墳発掘後の加古千恵子氏や，栃木県桑57号墳発掘後の岩崎卓也氏による類例の集成がある。

県内出土例を含めたものとして，中司照世氏の研究がある。中司氏は古墳時代中期後半から後期初頭における古墳副葬品の小型鈴に関して，同一工房で製作されたと考えられる製品があり，それらは朝鮮半島の騒乱にかかる倭軍の出兵に伴い招来され，各地に分散された可能性を指摘しており，指宿市橋牟礼川遺跡出土の鈴に関してもその中の一つであると評価している。

そして現在までに最も分類や編年等を進めた例として，田中裕氏の研究がある。田中氏は鈴の全国的な集成を行い，時期や形状，素材，作成方法などから分類し，日本列島における鈴の系譜や馬具との違い，生産開始時期や分布の特色等について述べた。県内出土鈴もこの分類に合致するため，本論ではこの田中氏の分類を参考にすることとし，その概要や類例を以下の第1表及び第1図に示す。

第1表　古代鈴の分類

	種類	特徴	時期
鋳造	無文1類	側面幅が正面幅や鈴体の高さに比べ大きく，栗のような外見。全高が2㎝内外ないしそれ以下と極めて小型。鈕及び鈕口とも丸く，口は腹部より上まで切れ上がる。	5世紀前葉から中葉
鋳造	無文2類	鈴体が球形に近く，側面幅はやや小さい傾向があり，肉厚で作りが非常に良い。「大型銅鈴」（高さ3.8㎝前後で鈕が四角形）と「小型銅鈴」（高さ3㎝前後で鈕は円形）とがあり，どちらも鈕が鈴体に比して小さめ。鈕口は丸く，口は腹部より上まで切れ上がる。	5世紀中葉から後葉
鍛造	無文3類	概して鍍金が施され，口の両端の上に鰭ないし耳のような突起がつく。口は腹部まで達せず，鈕は板のように薄くて小さい。大きさは高さ2㎝前後，鈴体は1.5㎝前後に集中。	5世紀末～6世紀初頭
鋳造	無文4類	形態は無文2類と類似する点が多いが，高さが5㎝程度と，一回り以上大きい。鈕は板状，四角形で鈴体に比して大きめで，作りは決して良くない。	5世紀末～6世紀代
鋳造	有文鈴	鋳造品で文様をもつもの。圏文鈴や虎頭鈴などがある。	5世紀末～6世紀代
鋳造	八角稜鈴	上から正八角形に見えるように鈴体を面取りしたもの。	6世紀～7世紀初頭
鍛造	鍛造Ⅰ類	上下半球を制作した後に二つを腹部の突帯でかみ合わせたもの。口は極めて細く，両端に円孔がみられる。鈕は別造りで縦長の板を使用し，頂部は円形・方形のものがある。出土例は多い。	6ｃ中葉～7世紀代
鍛造	鍛造Ⅱ類	著しく突帯が低く，稜という表現がふさわしいもの。上下半球を「はめる」という表現が適切。Ⅰ類との大きな違いとして，口の幅が著しく広い点がある。	8ｃ前葉～10世紀代



第1図　日本古代鈴の編年（田中 2009 案）

３　県内における出土例（第２表）

県内においては，古墳時代の鈴は４遺跡 16 点出土している。以下にその詳細を示す。

（1）立小野堀遺跡

① 遺跡の概要

鹿屋市串良町細山田の笠野原台地の北東部に所在する。地下式横穴墓 190 基及び土坑墓５基が検出されており，現在のところ宮崎県も合わせ，最も地下式横穴墓の検出数が多い。

② 出土遺構

200 弱の墓のうち２基のみ，90･126 号地下式横穴墓より５点ずつ計 10 点の青銅鈴が出土している。どちらも環鈴転用鈴１点と無文１類鈴４点の組み合わせであり，何らかの規則性が考えられるが，同様の組み合わせで出土した類例は見られない。またこの２基は墓群の中でも大きさや副葬品など上位にあるが，より遺物を多く副葬する墓もあり，最上位の墓ではない。出土の状態は，90 号墓は人骨の首付近にまとまって検出されており，首飾りとして使用されていた可能性がある。共伴遺物として，長頸鏃の束と鉄剣１振が出土している。126 号墓は，玄室天井が崩壊しており人骨は残存していなかった。後述するように２つの鈴の鈕口に紐の痕跡が残っていることから，紐等で繋がっていたと推測される。共伴遺物として鉄剣１振が出土している。

③ 鈴の形態（第2図）

１は環鈴転用鈴で，環部分は１㎝弱しか残存していない。鉄丸が内部で錆び，鈴口から外側に錆が広がった状態である。環と鈴の結合部に，環を挟んで２つの穿孔が施されている。２～５は 1.5 ～ 2.0 ㎝程度の大きさで，正面形が栗型を呈する形状である。鈕口は２㎜程度で，鈴口はほぼ閉じている。６は１と同じ環鈴転用鈴で，鈴体の一部を欠き，強く折り曲げられている。断面より大きさを復元すると，１に近い。７は２～５とほぼ同じ形態である。８は球状に近く，鈕と鈴口部分を欠損する。９は本遺跡出土鈴の中で最も小さく，縦長の楕円形を呈する。10 は破損しており，他の小型鈴と比較し鈕口が大きいという特徴がある。なお，６と７は鈕口に紐の痕跡が残っており，カラムシに近い繊維と報告されている。この２つは銹着した状態で出土したが，紐で結ばれていた可能性が高い。これらの鈴は鉛同位体分析を行っており，８は中国華北産原料，それ以外の９点は中国の華中～華南産原料との結果が出ている。２～５及び７～ 10 はやや形状に違いはあるが，無文１類の特徴を有しており，これに分類される。

（2）橋牟礼川遺跡

①遺跡の概要

指宿市十二町の市街地に所在する。海岸側へ傾斜する海抜７ｍ～ 20 ｍ程度の緩やかな火山性扇状地上に立地しており，縄文・弥生土器の層位学的実証で著名な遺跡である。古墳時代の竪穴住居が 150 基以上検出されており，多くの成川式土器と共に須恵器等が出土している。

②出土遺構

Ⅴ区３号住居とⅣ区９号住居から１点ずつ出土している。共伴する遺物としては，Ⅴ区３号住居は鉄斧が出土しており，年代は辻堂原式から笹貫式段階に帰属する土器が出土していることから５世紀から６世紀にかけてのものと思われる。Ⅳ区９号住居は共伴遺物の記載は無いが，近隣の住居に伴う須恵器の年代から，５世紀代であると考えられる。

③ 鈴の形態（第3図）

11 はⅤ区３号住居出土で，体の半分を欠損しており，やや円形に近い２か所の穴が開いている。全体は緩い逆三角形状である。無文１類と考えられる。12 はⅣ区９号住居出土で，球形で外面が丁寧に研磨されている。鈴口は破損がみられ，大きく開く。無文２類と考えられる。

(3) 中尾遺跡（中尾地下式横穴墓群含む）

① 遺跡の概要

鹿屋市吾平町上名に所在し，姶良川の河岸段丘縁辺部に立地する。古墳時代の遺構として，竪穴住居跡 22 軒，溝状遺構４条，地下式横穴墓８基が検出されている。

② 出土遺構

鈴は２点出土している。１点目は溝状遺構４号の溝内より出土しており，溝内からは他に成川式土器の笹貫段階と考えられる甕や甑形土器，TK209 段階，６世紀後半と思われる須恵器坏が出土している。２点目は４号地下式横穴墓の玄室内において，刀子と共に１点出土している。周囲の墓の副葬品から，６世紀後半頃の墓と推定される。

③ 鈴の形態（第3図）

13 は溝内出土のもので，県内出土鈴で唯一の鉄製で腹部に鍔状の帯があり，上半部と下半部を重ねつける鍛造品であり，鍛造Ⅰ類に分類される。頂部には方形の鈕が付き，口は細く，両端に円孔が見られる。鈕と口はややずれて直行し，丸はチャート製の小礫である。14 は地下式横穴墓出土のもので，青銅製で鈴杏葉の身の部分が破損し，鈴部分を再利用している。鈴口は約２㎜空いており，杏葉本体部には約３㎜と２㎜の２つの穿孔が施され，紐等をかける穴と推測される。また本体部に珠文が２カ所確認できる。鈴部は研磨されておらず，砂状の凹凸が多く残る。鈴体裏面の中央には約１㎝の楕円形の穴が空いており，馬具として使用された際に擦れて空いた可能性がある。

（4） 鹿児島大学構内遺跡（郡元団地）

未報告事例であるが，２点出土しており，鹿児島大学埋蔵文化財調査センターのご協力を得て実見させていた

だいた。

① 遺跡の概要

鹿児島市郡元１丁目の鹿児島大学郡元キャンパス内に所在する。沖積平野の自然堤防帯に立地している。古墳時代前期から後期にかけての，約 100 基の竪穴住居跡が出土している。鈴が出土した区域では，辻堂原式や笹貫式等の土器や須恵器が多く出土している。

② 出土遺構

2007 年の共通教育棟改修工事においては多数の古墳時代竪穴住居跡が検出され，住居跡より金銅鈴の小片が１点出土している。2001 ～ 2002 年における理学部１号館改修工事での発掘調査においては 43 号住居跡で青銅鈴が１点床面付近で出土しているが，他の住居と切り合った部分が大きく，共伴遺物があったかは不明である。

③ 鈴の形態（第3図）

15 は共通教育棟における住居跡より出土しており，鍛造製品の鍔の一部で，鍔部分の幅 3.8 ㎝程度が残存している。金銅製で，全体の大きさは不明であるが，鍛造Ⅰ類と考えられる。16 は 43 号住居跡出土で，青銅製で胴部を３分の１程度欠損している。丁寧に加工された球体をなしており，橋牟礼川遺跡出土の 12 と大きさや色・形等極似していることから，無文２類と考えられる。

４　分類と本県以外の出土例

⑴ 分類

16 点の本県出土の鈴を分類すると，以下のとおりである。

・単体の鈴（13 点）

ア　無文１類９点（２～５，７～ 11）

イ　無文２類２点（12･16）

ウ　鍛造Ⅰ類２点（13・15）

・鈴付青銅器転用品（３点）

エ　環鈴転用２点（１・６）

オ　鈴杏葉転用１点（14）

⑵ 出土例と分布（第4･5図）

本県以外の出土例について，田中氏による集成に近年判明した分を加え，上記ア・イ分を第４・５図に記した。

アについては，北信越地方や近畿，北九州，朝鮮半島に分布がみられる。個数は１～３個程度の少数副葬が多い。

イについては，南九州・北陸に多く，朝鮮半島や関東にもみられる。個数は１個もしくは６個程度の場合が多い。

ウについては出土例が非常に多いため図示できなかったが，特に関東や中部地方を中心とした東日本で多く出土している。材質は金銅製がほとんどで，鹿屋市中尾遺跡出土のものと同じ鉄製のものは少ない。

エについては，環鈴は朝鮮半島で 15 例，日本で 70 数例と，日本での出土例が多く，３鈴を配するものが大多数で，４及び２鈴の例はごく少数である（石山 2005）。よって三環鈴の一部である可能性が最も高い。地理的に最も近い例は，宮崎市の下北方５号地下式横穴墓出土の三環鈴で，５世紀代とされ時期も近い。また１鈴と環の一部のみで発見された例は，福岡県福津市の勝浦井ノ浦古墳，茨城県つくば市の中台遺跡でみられる。

オについて，鈴杏葉は東日本で多く出土しており，３及び５鈴が配置されるものがある。地理的に最も近い例は，宮崎県えびの市の島内 139 号地下式横穴墓で，五鈴杏葉が出土している。１鈴のみ転用して使用されている例は不明である。

５　まとめ

無文１・２類などの小型青銅鈴の分布は北信越や関東など東日本に多いと考えられていたが，えびの市など近隣も含めた近年の県内遺跡の発掘成果により，南九州での分布が全国的にも多いことが判明してきた。無文１・２類は朝鮮半島で製造されたと考えられており（田中 1992），５世紀においては，朝鮮半島から当時の日本周縁域へ多く配布されたことがわかる。しかし６世紀代に入ると，県内においては鈴の検出数は少なくなっており，逆に関東など東日本では多くなっている。これは，鈴の製造が東日本を中心に行われ，県内は地理的条件や交流ルートの変化もあり配布が減少したことが考えられる。

最後に副葬品としての配布のされ方についても触れておきたい。無文１類に関しては，長野県千曲市森将軍塚古墳や熊本県八代市大鼠蔵古墳では古墳の主体部ではなく，周囲の箱式石棺に１点のみ副葬されており，また県内でも古墳ではなく小型の地下式横穴墓に副葬されている。また無文２類は，県内では１点ずつの検出であり，宮崎県えびの市島内地下式横穴墓群において，最上位の 139 号墓では９点みられ，副葬品が少ない 113 号墓で１点みられた。このことは，５世紀代の鈴は地域の最上位層に多数配布され，下位層に少数ずつ分け与えられたと推測される。

なお小論に関しては，ご指導をいただいた田中裕氏をはじめ，鈴の実見にご協力いただいた鹿児島大学の中村直子・新里貴之氏，指宿市教育委員会の中摩浩太郎・鎌田洋昭氏，鹿屋市教育委員会の稲村博文氏には大変お世話になりました。記して感謝申し上げます。

【参考文献】

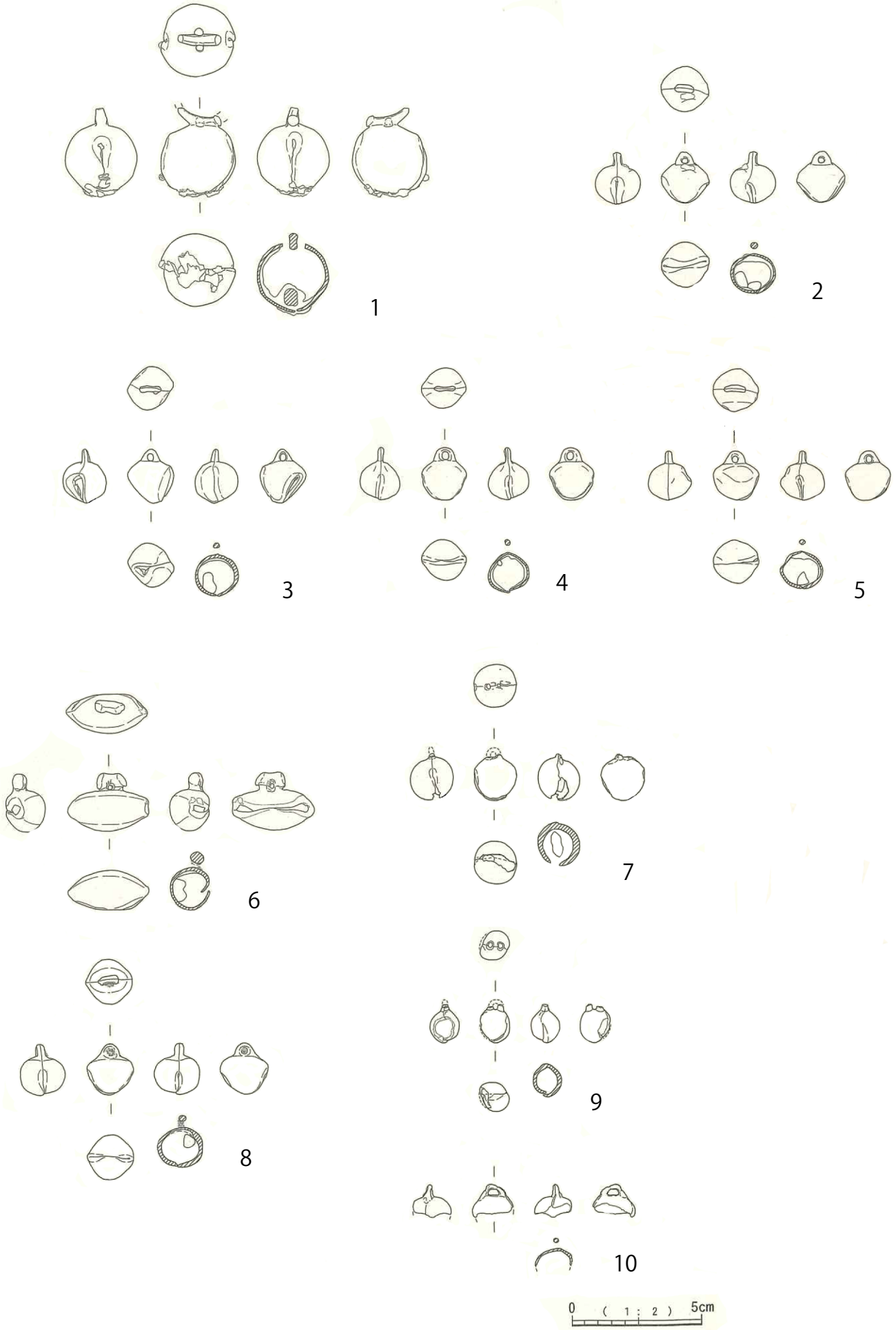
田中裕 1992「小型埋葬施設出土の日本初期の鈴」『史跡　森将軍塚古墳－保存整備事業発掘調査報告書－』長野県更埴市教育委員会

指宿市教育委員会 2016『橋牟礼川遺跡総括報告書』指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書（56）

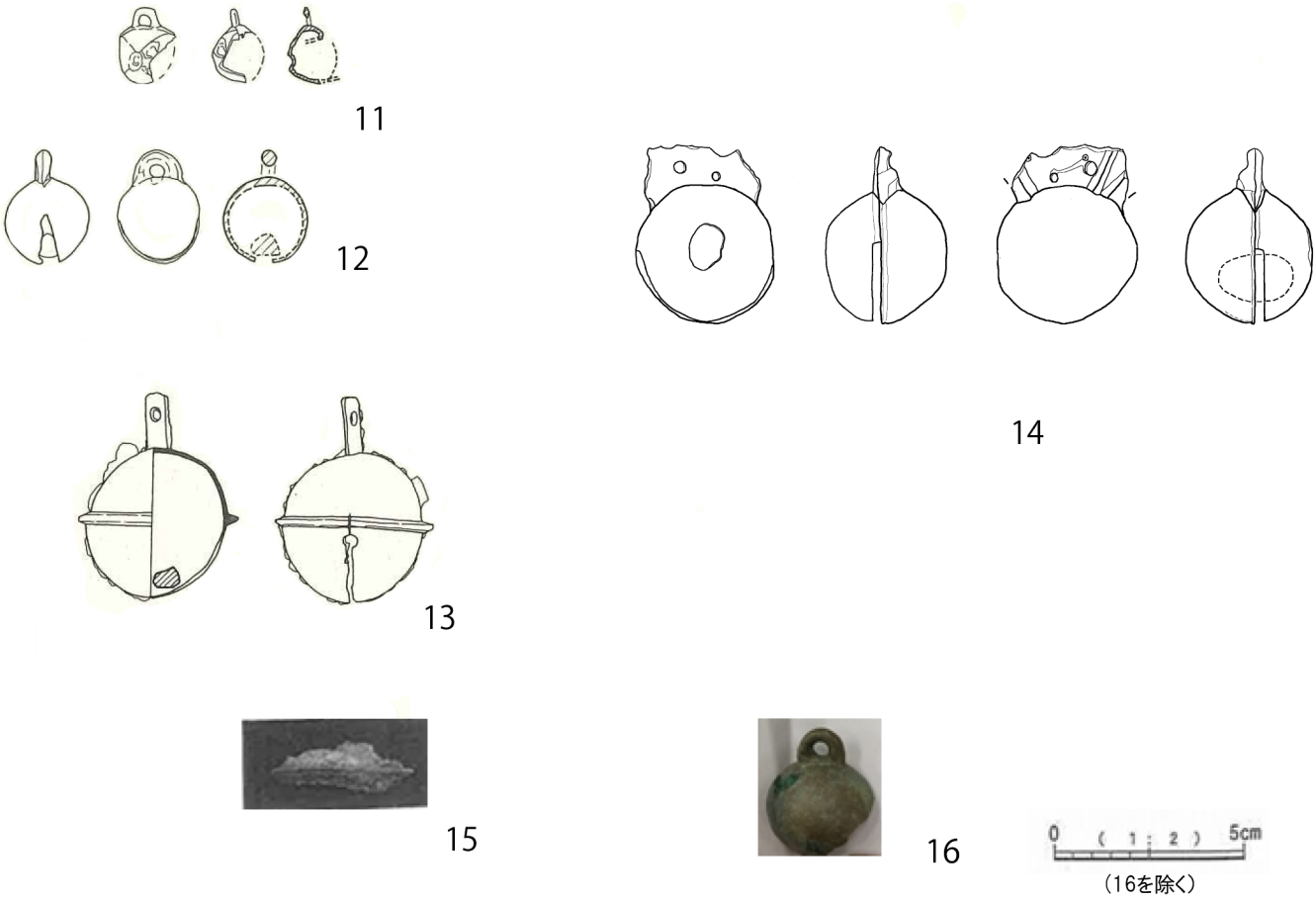
吾平町教育委員会 1998『中尾地下式横穴墓群』吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書（15）
吾平町教育委員会 2005『中尾遺跡Ⅳ』吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書（19）
鹿児島県立埋蔵文化財センター 2005『中尾遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（87）
（公財）埋蔵文化財センター 2017『立小野堀遺跡』公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財センター発掘調査報告書（16））
宮崎県えびの市教育委員会 2018『島内 139 号地下式横穴墓　Ⅰ』えびの市埋蔵文化財調査報告書第 55 集
宮崎県えびの市教育委員会 2009『島内地下式横穴墓群Ⅲ・岡本遺跡』えびの市埋蔵文化財調査報告書第 50 集
石山勲 2005「環鈴について」『行橋市文化財調査報告書 32　稲童古墳群』行橋市教育委員会
海の道むなかた館 2015『鈴の文化史ームナカタの考古学 5』
滋賀県教育委員会 1988『横尾山古墳群発掘調査報告書』一般国道 1 号関係道路発掘調査報告書Ⅱ
中司照世 2014「古墳時代中・後期の同一工房製小型銅鈴ーその分布と歴史的背景」『土筆 11』土筆舎
第 55 回鹿大史学会大会発表レジュメ

第2表　鹿児島県古墳時代出土鈴（平成 30 年 12 月現在）

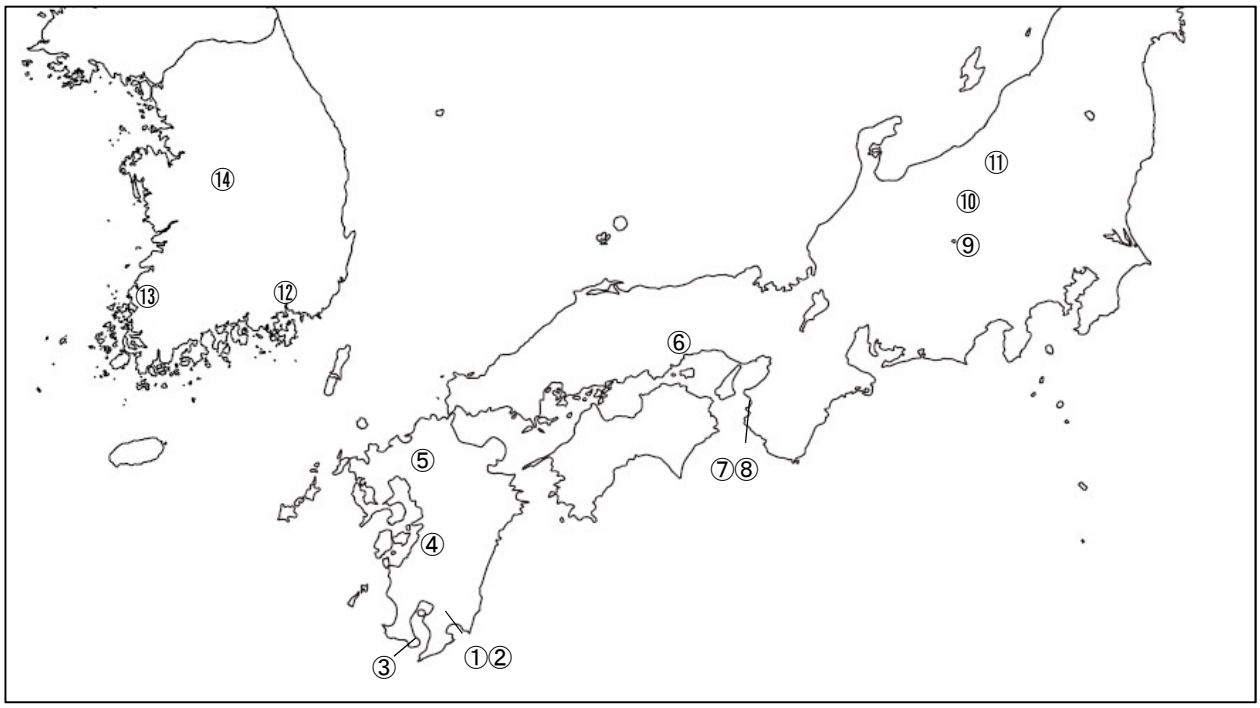
	出土遺跡	出土遺構	材質	造	高さ	鈴体高	正面幅	側面幅	時期(報告書等記載)	共伴遺物	備考
1	立小野堀	90号地下式横穴墓	青銅	鋳造	3.3	2.6	2.9	2.8	5世紀中頃～後半	鉄剣1・鉄鏃28点(長頸鏃22点・圭頭鏃2点・腸抉柳葉鏃1点，鉄鏃片3点)	環鈴転用
2	立小野堀	90号地下式横穴墓	青銅	鋳造	1.95	1.5	1.8	1.7	5世紀中頃～後半		無文1類
3	立小野堀	90号地下式横穴墓	青銅	鋳造	2.05	1.6	1.7	1.65	5世紀中頃～後半		無文1類
4	立小野堀	90号地下式横穴墓	青銅	鋳造	2	1.5	1.7	1.6	5世紀中頃～後半		無文1類
5	立小野堀	90号地下式横穴墓	青銅	鋳造	1.9	1.4	1.7	1.7	5世紀中頃～後半		無文1類
6	立小野堀	126号地下式横穴墓	青銅	鋳造	2.2	1.6	3.1	1.5	5世紀中頃～後半	鉄刀1	環鈴転用
7	立小野堀	126号地下式横穴墓	青銅	鋳造	1.95	1.4	1.8	1.7	5世紀中頃～後半		無文1類
8	立小野堀	126号地下式横穴墓	青銅	鋳造	1.75	1.6	1.6	1.6	5世紀中頃～後半		無文1類
9	立小野堀	126号地下式横穴墓	青銅	鋳造	1.45	1.7	1.1	1.1	5世紀中頃～後半		無文1類
10	立小野堀	126号地下式横穴墓	青銅	鋳造	1.2	0.7	1.6	1.4	5世紀中頃～後半		※残存部のみ。無文1類
11	橋牟礼川	Ⅴ区3号住居	青銅	鋳造	2.0	1.5	1.5	1.5	5～6世紀頃	なし	無文1類
12	橋牟礼川	Ⅳ区9号住居	青銅	鋳造	3.0	2.3	2.2	2.2	5～6世紀頃	鉄斧	無文2類
13	中尾	溝状遺構4号	鉄	鍛造	5.5	4.0	4.3	4.2	6世紀後半	成川式土器・須恵器・圭頭鏃等	鍛造Ⅰ類
14	中尾	4号地下式横穴墓	青銅	鋳造	4.8	3.7	3.7	3.3	6世紀後半	刀子1	鈴杏葉転用
15	鹿大構内	住居内出土	金銅	鍛造	―	―	―	3.8	―	―	鍛造Ⅰ類
16	鹿大構内	43号住居	青銅	鋳造	3.3	2.4	2.4	―	―	―	無文2類



第2図　県内古墳時代出土鈴（立小野堀）

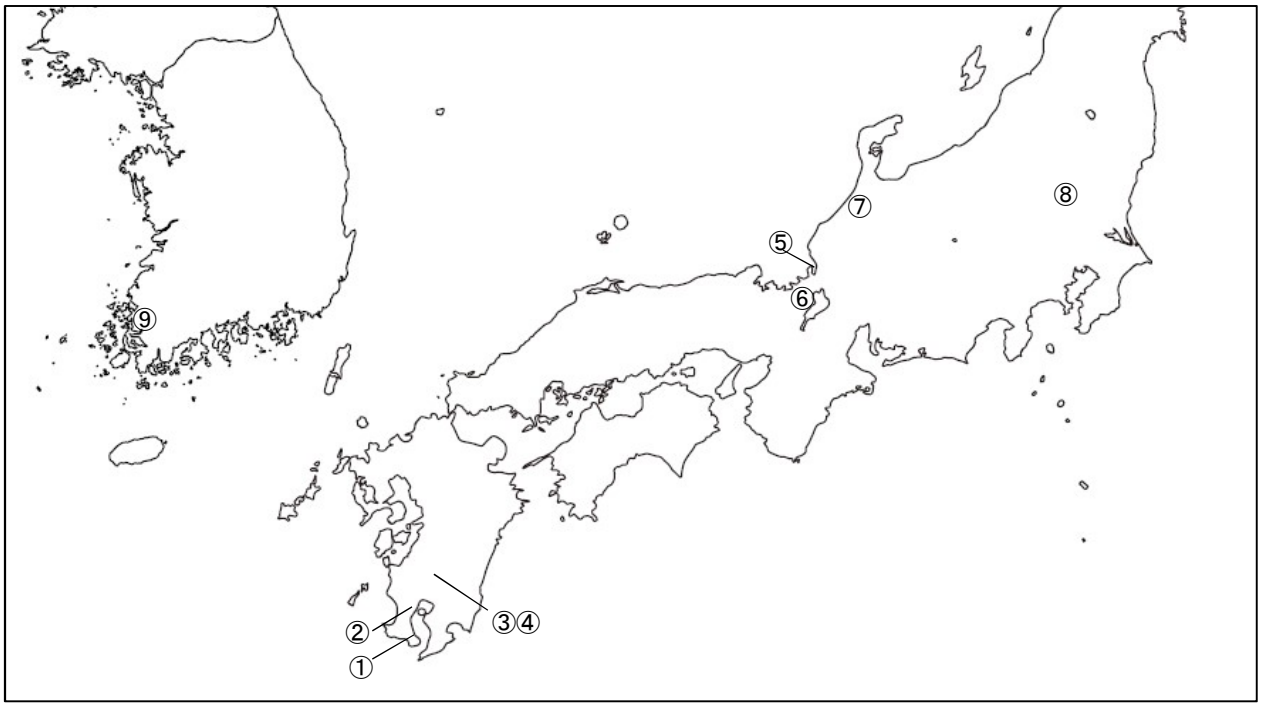


第３図　県内古墳時代出土鈴(橋牟礼川 11･12，中尾 13･14，鹿児島大学構内 15･16)



	遺跡名	遺構区分	所在地	数	共伴遺物	時期	被葬者(人骨)	備考
①	立小野堀90号墓	地下式横穴墓	鹿児島県鹿屋市	4	鉄剣・鉄鏃束・三環鈴転用鈴	5世紀中葉～後葉	20代男性	
②	立小野堀126号墓	地下式横穴墓	鹿児島県鹿屋市	4	鉄刀・三環鈴転用鈴	5世紀代	なし	148号墓と時期同じと推定。
③	橋牟礼川遺跡 Ⅴ区3号住居	竪穴住居	鹿児島県指宿市	1	鉄斧	5・6世紀代	―	
④	大鼠蔵南東第5号墳 (箱式石棺)	円墳	熊本県八代市	2	貝輪・櫛・人骨	5世紀前半	壮年女子	棺内に4体の人骨。鈴は第2人骨の副葬品。
⑤	神領2号墳	円墳	福岡県糟屋郡宇美町	2	櫛・針・勾玉・管玉・鏡・刀子・その他玉類	5世紀前葉～中葉	なし	
⑥	榊山古墳	円墳もしくは前方後円墳	岡山県岡山市	1	馬形帯鉤・鉄刀・鉄剣・鉄槍・鉄斧等	5世紀前葉～中葉	不明	造山古墳の陪塚
⑦	大谷古墳	前方後円墳	和歌山県和歌山市	3	玉類・鉄鏃・鉄剣・桂甲・衝角付冑・垂飾付耳飾・馬冑・馬甲・馬具(轡・鈴付杏葉・馬鈴)等	5世紀後葉	歯のみ	馬冑の出土で著名。
⑧	神前遺跡	溝状遺構	和歌山県和歌山市	1	―	5世紀後半	―	報告書未刊行
⑨	フネ古墳	方墳？(墳丘消失)	長野県諏訪市	2	鉄剣・蛇行剣・鉄刀・素環頭大刀・鉄鉾・鉄鏃・刀子・鏡・鉄釧・鉄斧・鉈等	5世紀前葉～中葉	なし	
⑩	森将軍塚古墳 (31号石棺)	前方後円墳	長野県千曲市	1	刀子・鉄製環・玉類等	5世紀前葉～中葉	なし	
⑪	飯綱山10号墳	円墳	新潟県南魚沼市	3	短甲・鏡・鉄剣・鉄鉾・鉄刀・玉類・鉄鏃・鉄斧・(馬具(轡・鐙・馬鐸・三環鈴・杏葉)等	5世紀中葉～後葉	不明	
⑫	金海大成洞古墳 91号墓	大型木棺墓	大韓民国慶尚南道金海市	2	銅鍑、銅盆、銅碗、金銅辻金具、金銅馬鈴, 筒形銅器等	4世紀前半？	なし	
⑬	竹幕洞祭祀遺跡	祭祀跡	大韓民国慶尚南道金海市		土器, 須恵器, 銅鏡, 鉄剣, 鉄鏃, 石製品等	4～6世紀 (最盛期は5世紀後半～6世紀前半)	―	
⑭	清州市出土品	―	大韓民国忠清北道清州市		―	―	―	

第4図　古墳時代における無文1類タイプ鈴の出土遺跡一覧



	遺跡名	遺構区分	所在地	数	共伴遺物	時期	被葬者(人骨)	備考
①	橋牟礼川遺跡 Ⅳ区9号住居	竪穴住居	鹿児島県指宿市	小1	無し	5世紀代		
②	鹿大構内遺跡 43号住居跡	竪穴住居	鹿児島県鹿児島市	小1	切り合いあるため、不明	―	―	未発表資料
③	島内113号墓	地下式横穴墓	宮崎県えびの市	小1	大刀1，錐1，刀子1，長頸鏃18，骨鏃2	5世紀後半	壮年男性5	計5名埋葬。鈴は羨道脇。
④	島内139号墓	地下式横穴墓	宮崎県えびの市	大3 小6 ※	銅鏡1，甲冑1式、弓矢・馬具・装身具等多数	5世紀末	男1 女1	※大きさの数値は未掲載の為、推定。馬具の下に置かれる。
⑤	西塚古墳	前方後円墳	福井県三方上中郡若狭町	小6	銅鏡，金製耳飾、金銅製帯金具，銀製鈴，馬具等	5世紀後葉	―	
⑥	鴨稲荷山古墳	前方後円墳	滋賀県高島市	大3	金銅冠，沓，魚佩，金製耳飾，鏡，玉類，環頭大刀，鹿装大刀，刀子，鉄斧	6世紀前半	―	
⑦	二子塚狐山古墳	前方後円墳	石川県加賀市	小6	鏡1+鉄剣2+鉄刀4以上+鉄矛1+鉄鏃多数+鋲留短甲1+衝角付冑1+刀子5等多数	5世紀後半	男1	
⑧	桑57号墳	帆立貝型古墳	栃木県小山市	大6 小2	銅鏡3，鉄刀4，鉄剣3，蛇行剣1，刀子1，冠片1等	5 世紀後半	壮年 女1	
⑨	月松里造山古墳	古墳(横穴式石室)	大韓民国全羅南道海南郡	小2	百済土器・馬具・武器貝釧・仿製鏡	6世紀初頭	―	

第5図　古墳時代における無文2類タイプ鈴の出土遺跡一覧